

砲丸投げ、

重量挙げ

幅跳び

鉄棒と平行棒でそれぞれ 3 種の演技

鞍馬で 2 種の演技

徒手体操

上級クラスと下級クラスの演技はすでにその数週間前から一部取上げられ、各部で練習をしていた。最終的な決定の後、以下のような告知がなされた。

体操競技会

(12 種競技)

上級

I. 普通体操

規定 20 点

- | | | | |
|---------------|--------|--------|----------------|
| 1. 石投げ | 4 m | 7 m | 15cm ごとに 1 点 |
| 2. 踏切り板なし高跳 * | 1,15 m | 1,65 m | 5cm ごとに 2 点 |
| 3. 棒幅跳 | 5 m | 7,50 m | 12,5 m ごとに 1 点 |

* ロープに触れた場合は 1 点と数える

II. 器具体操

4- 6, 鉄棒 振り演技

前向き位置から跳躍、順手伸身懸垂（停止）、腕支持回転して停止、右か左足の腿かけ逆上がり、1 回転、後向き回転から倒立懸垂、蹴上がり、前方へ腕支持回転、後方へ腕支持回転、伸身懸垂、前方に身体を振って跳越え、仰向け蹴上がり、短時間の支持、跳び下り。

上級技

前向き位置から跳躍、順手伸身懸垂、両脚を上げて懸垂、横に開脚、身体を起して支持、水平位置から前方沈み込み、足裏支持で倒立、倒立懸垂、腰をあげて背面支持、1 / 2 旋回して前方支持、後方沈み込み後懸垂、足裏支持で逆さ懸垂、背面水平姿勢から懸垂へ、片手を離し、1 / 2 旋回して懸垂、着地。

自由演技

7-9. 平行棒 振り演技

平行棒端で対面、振り上がり背面支持して両脚前方支持、振動して短時間の倒立、振動して屈肘支持、上腕懸垂、前方回転して上腕懸垂、背面振り上がり支持、前方に振って腕支持、転向して平行棒の横に着地。

力技

平行棒の端で対面、跳躍、伸身支持、両脚を上げて停止、左手をゆるめて1 / 4 旋回、片方のバーで背面側面支持（静止）、右手を握りなおして（逆手）沈み屈曲支持、左手をゆるめて3 / 4 旋回、左のバーを握り、前方伸身支持、上腕倒立、体を下げて上腕懸垂、両腕を張って伸身懸垂、1 / 4 旋回して片方のバーで側面支持（平行棒の中で）、体を下げて両脚前方支持、前方へ体を引き上げ側面支持、開脚して後ろ向きに側面着地。

自由演技

10.-11. 鞍馬 振り演技

鞍馬に向かって横に立ち、左足と右足を入れて後方側面支持、後ろ向きに左側面で振動、前方側面支持、右足を入れて右脚で側面支持、左側方交差、右足を抜いて後方 s 工面指示、右足を左回転、左足を左回転、左足を引っ込め、右後方へ交差して鞍部に騎乗、左手を後ろのポンメルでつかみ、右手を腰に置いて、腰の上で回転。

自由演技

12. 棒演技

1. 1 拍：棒を前に上げ、持ち手を左に変え、左脚を横に開く。
 2 拍：右膝曲げ左膝伸ばして左に向く、棒の左端を左足先へ下ろす、
 右腕を 90 度角に
 曲げ、 視線を棒の左端に向ける。
 3、4 拍： 休止
2. 1 拍：右足の母趾球上で 1/4 回転、右脚を伸ばす。左脚と棒を振り抜く、左手を棒上で
 右手まですべらせる。
 2 拍：左屈膝して前方に向き、同時に棒を頭上にあげる（棒を体位と同様に）
 3、4 拍： 休止
3. 1 拍：左手を離し、棒と左腕を頭上から前、下、後ろへと振る。その際同時に右脚を伸ばし、
 左足を後ろに振る（上体は軽く前に傾ける）。
 2 拍：左脚を前に振り、棒と左腕を前方に高く振り上げる。
 3 拍：右足の母趾球上で右へ 1/4 回転、右膝を曲げて左脚前へ。
 1/4 回転中に棒を掴む。
 右手の上まで左手を伸ばす右手で棒を右下方に引き下げる。
 棒は左手の中を滑る。
 左手は右肩で停止、視線を左上に向ける。
 4 拍： 休止
4. 1 拍：左足の母趾球上で 1/2 回転、左膝を曲げて右側方に向く。
 同時に棒を横から前を
 通って左横まで振り、右腕を右脇に保持。

2、3、4 拍： 休止

5. : 両腕を横に高く上げながら右脚を横に上げる。右手を左手の上に添える。

6. 1 拍： 右脚を左後ろにクロスし、首後ろの棒を下げる。

2 拍： 右足の母趾球上で 1/2 回転、棒を高く上げる。

3 拍： 左へ終わりのステップ。棒を下ろす。

4 拍： 休止

7. - 12. : 左右を入れ替えて繰り返す。

演技は 4/4 拍子で行う。

下級

I. 普通体操

	規定	20 点	
1. 助走つ砲丸投げ	4.20m	8.20m	20cm ごと 1 点
2. 踏切板付き幅跳び	3.60m	5.60m	10cm ごと 1 点
3. 踏切板なし高跳び	1.05m	1.55m	5cm ごと 2 点

ロープに触れた時は 1 点。

II、器具体操

4. - 6. 鉄棒 振り演技

対面姿勢から跳躍、順手で伸身懸垂。蹴上がりして前方腕支持。後ろ向きに倒れ込む。左か右足の足掛け上がり。前方足掛け回転、足掛け水平姿勢へ。左か右足の足掛け上がり。左手か右手を広げ、左足か右脚を広げて前方に降りて、鉄棒脇で静止。

力演技

対面姿勢から跳躍、伸身懸垂。右または左腕中心に別の腕を使って全回転して前方支持、脚前方挙持を通して前方に降下、懸垂、前方逆上がり、

後ろ向きに支持、後ろ向きに降下、脚前方挙持（3拍分維持）、着地。

自由演技

4.-9.平行棒 振り演技

静止位置から前へ助走をつけて跳躍、腕懸垂、バーの中央で蹴上がり、上腕倒立、前方回転、後方へ振り手支え、開脚して後ろ手に座る。手を持ち直して開脚前手座、旋回して右手外向き座り、左に剣士跳び。

力演技

バーの端で前向き姿勢から跳躍、腕支持、ライオン進行、一回前把、両脚上げ静止、開脚、前把して後ろ手で開脚座り、上昇して上腕逆立ち、前方回転して左または右向き座り、半回転して飛び降り、側方に着地。

自由演技

10.-12. 鞍馬。 振り演技

鞍馬横で対面し、左へ体を浮かせ、右脚前へ、右脚後ろへ。同じことを左足で行う。右脚前に上げて鞍馬の右脚上に着座、左へ脚交差、右へ開脚、背面支持、左脇振動、後方へ、対面着地、回れ右。

2回目の演技

半回転して開脚。

自由演技

参加申込み者リストから分るように、12名のメンバーがいる第1チームから競技会に10名の申込みがあった。チーム代表のルフは審判団に加わるので競技会には参加しない。その後病気によって2名が不参加となった。第2チームのメンバー10名のうち5名が参加し、第3チームからはメンバー12名のうち6名が体操技量の評価を受ける勇気を出してくれた。

5月15日に第一回目の月例集会が開かれ、役員の用意したプログラム

について会員の意見聴取が行われた。そこでの合意については次の例会議事録が示すとおりである。

板東体操クラブ第一回月例集会

第 6 中隊講義室にて 1919 年 5 月 15 日開催

8 時 15 分に役員のフェルヒネロウスキーが開会を宣言、次のような議事を提示した。

1. 新入会員の承認

2. 1919 年 1 月から 5 月までの体操活動についての報告

3. 会計報告

4. 体操競技会

5. その他

1. について 今月新たな会員として第 2 チームにフランク、ケーラー、ソボトカが加入し、第 3 チームにオファーゲルト、ウアバンケ、ホルンマンが加入した。加入に対する異議はなく、役員が協会を代表して歓迎の言葉を述べた。第 2 チームからはビショッフとハインクが退会した。ハインクは非活動会員として登録された。

2. について 体操活動の報告は器具係の選任に関する追加報告と会費の月払の導入とをのぞき承認された。

3. について 会計報告によれば、5 月 15 日までの収入は 5 円 80 銭、支出は 4 円 93 銭で現金の残高が 87 銭となった。

4. について 役員が競技会について詳細を明らかにした。開始は 6 月 1 日午前 8 時となる。全ての等級はシニアも含め同時に演技が行われる。器具の順序については審判団による抽選で行われる。午後についてはエキシビションが予定されている。一番最初にプリンツ上等兵曹殿指揮下の徒

手演技への入場行進から始るが、音楽について今回は第3海兵大隊の楽団にお願いするとのことである。徒手体操のあと、全チームによる半時間の自由演技があり、その後いくつかの体操演技をして、最後に競技会の結果発表と表彰式を行う。

招待状を出すかどうかについては何人かから強い異論があり、競技会への不参加を持出すほどまでであった。日刊電報通信に告知文を掲載し友人や協力者を招待するなら、また楽団が無料でこの催しに花を添えてくれるなら、その場合には一般観衆の前で演技すること、したがって自ずとスポーツ委員会と新聞への招待を行うことになる、以上の点で反対者を説得することはできなかった。この件について採決の結果、12対6で招待は否決となった。残りの6票は白票であった。

5. について 器具係からあん馬のカバーが激しくすり切れているので、靴のかかとが鋭いものや高いものは止めてほしいとの指摘があった。

このほか、競技会後シニアチームと合同で歓談会を催す提案があった。場所としては体育館が候補に上がった。この準備のために委員会が設けられ、ケンツォラ、シュタール、クナープ、ムックスが推薦された。4名とも推薦を受諾した。採決の問題について徹底的に議論した後に、各人がそれぞれの個人的な事情に応じられるようにビール券を発行することが提案された。この点が解決したので、例会は9時半に代表から終了の宣言があった。参加者は24名であった。

この集会が役員たちに及した印象は重大なもので、精神的動揺を来した人も何人かいた。これまで高く賞賛されてきた一体感にも大きなひびが入った。集会での不参加の発言は取消されたものの、ある種の気まずさの影、一種の失望感が残ることとなった。

しかしながら役員たちにとって、このような体操大会にスポーツ委員会と新聞を招待することは当然の義務であった。それは、ひとつにはある程度の関係を維持するため、もうひとつはこれら公的な立場から収容所内のスポーツ面について意見を聞くことによって体操をもっと前面に押し出したいから、もっとわれわれの体操の将来への意義を示したいからであった。残念ながら、この考えに理解を示す人はごく僅かしかいなかった。

役員たちは臆病風邪にとりつかれて自信を無くし、仕事を前に進めるのに障害となった。その結果、模範演技はなくなり、招待状は出されなくなり、催し全体が当初の考えどおりの体操クラブ内部の競技会になってしまった。

しかし計画全部が最初の考えにのみ基づくのであれば、その成果は一時的なものでしかない。もっと拡張し、補充したならば、その成果はずっと持続するものとなるだろう。この文章が正しいか間違っているかは未来が教えてくれるだろう。

さて、このあと競技会に向けての練習がきわめて熱心に行われた。すでに5月11日には審判と選手にルールその他を周知させるために上級者へのテスト競技が行われていた。一週間後には同じことが下級者向けに、5月25日にはシニアチーム向けに実施された。全員がその結果を見て偉大な日を落着いて迎えることができた。それどころかもっと良い成績を取ることを期待さえできたのである。

審判として、上級者にはプリンツ、クーフース、ルフの各氏、下級者にはオイヒラー氏とE. アルプス氏、シニアチームにはレンケル氏とツィーマン氏を得ていた。競技会の前夜、収容所上空には雨雲が重く垂れていた。今回も又みんな、体操関係の催し全体のあるたびに雨もつきものなのだと思った。それだけに翌日がすばらしい天気で明けたとき驚きはいっそう大きかった。日刊電報通信に掲載された告知を読んで友人や体操の支援者が

姿を見せた。

7時30分に各クラスが次の順で体操を開始した。

上級	下級	シニア
石投げ	平行棒	鉄棒
あん馬	幅跳び	砲丸投げ
鉄棒	あん馬	平行棒
平行棒	鉄棒	幅跳び
棒幅跳び	高跳び	あん馬
高跳び	砲丸投げ	重量挙げ
棒体操	あん馬跳び	徒手体操

8時45分ごろ、ハンゼン上等音楽兵曹殿が自らすすんで楽隊を引連れて現れ、これまで何度もそうしてくれたようにわれわれの体操を支援してくれた。その軽快な行進曲の響きのもと体操をする者には初めてそれらしい雰囲気を感じた人もいたようである。

私自身競技に参加していたので批評は差控えたいところではあるが、これだけは言わせてもらおうと、ほとんどの選手がこの午前中プレッシャーを受けているような、覚束なさそうな印象を私は受けた。体操のレッスンではいともたやすく最後までできた演技がほとんどできず、いつも見なれていたような成績をその半分までも挙げられないほどであった。いわゆる良い日であったのはほんの数人であった。

10時には体操演技が終った。おそらく何週間も努力をして練習をしたのでもっと良い成績を期待していた者もいるであろうし、自分自身のふがいなさに不機嫌そうに運動場を去った者もいた。あるひとは、今頃になってようやく眠気が取れてきちんと目が覚めたなどと言うほどであった。

この日引き続き祝宴として歓談会が行われることとなった。体操館がこの

ために多くの熱心な人たちの倦まず働く手によって緑の祝祭場へと姿を変えていた。会の初めにオイヒラー曹長の短く力強いスピーチがあり、その中で賞が取れると期待していたのに失敗した人たちをもねぎらっていた。続いて審判団から競技会の結果発表があった。

順位は以下のとおり。

上級			下級		
1 位	フェルヒネロウスキー	133 2/3 点	1 位	ケーラー	132 点
2 位	ヴォルフ	122 1/3	2 位	ソボトカ	121 1/2
3 位	フレンダー	117 1/3	3 位	シュタール	120 1/2
4 位	ムックス	111 2/3	4 位	ヘルムス	112
5 位	フェッター	109	5 位	ケンツォラ	112
6 位	ベーフィング	100 2/3	6 位	オファーゲルト	111
			7 位	ライディヒ	104 1/2

シニアチーム

1 位	フライエンハーゲン	130 点	5 位	デュルコップ	117 点
2 位	エーラース	126	6 位	ボフニヒ	110
3 位	バルクホールン	122 1/2	7 位	ケーニヒ	107 1/2
4 位	ヴィレ	119	---	レーレケ	85 1/2

高得点は

上級	器具体操	一般体操
フェッター	78 点	
フレンダー	77.5 点	
フェルヒネロウスキー	58 点	
下級		
ソボトカ	73 1/2 点	

ケーラー	51 点
シニアチーム	
バルクホールン	85 1/2 点
エーラース	49 点
フライエンハーゲン	49 点

優勝者には盛大な拍手のもと賞状が手渡たされた。このほか各グループの3位までが日本の柏の葉で作ったオークの冠を授けられた。

賞状のデザインは昨年計画されながら流れた体操祭のためにわれわれの体操ファンであるクルト・レーチュが制作していたもので、今年のために使用させてもらったものである。収容所印刷所がその複製を引受け、全員が満足にいくほどに仕上げてくれた。

審判団にもこの日の記念するものとして団長がひそかに記念リーフレットを作成しており、びっくりして目を丸くしている男たちにそれが手渡された。これをもってこの夜の最初のいわば公的な部分が終了し、人々はすっかり寛いだ。

相応しい場所でそれに見合う歌
それを作ったのは若き鉄棒選手
全員の口からは力強く
楽しい歌の歌詞が聞えてきた

1) 楽しい歌声を響かせよ

外の広い世界に向って！

明るい声で告げよ

われらを束ねているものが何か！

われらは心をひとつにし、

手を取合って進みたい。

|: われらの周りにかたく連なるは

一致してまとまる強き国 :|

われらは感激に燃えたつ

ヒップ・ヒップ・フラー、ヒップ・ヒップ・フラー

われらはしっかりと心正しくまとまるのだ

ヒップ・ヒップ・フラー、ヒップ・ヒップ・フラー

2) 美しき祖国の

東に西に、南に北に

われらをつなぐはドイツの言葉、

われらの心に慣れ親しんだもの。

運命がわれわをこの地球上の

どこに運ぼうとも。

:: ドイツの言葉が聞こえているかぎり

われらの結束は揺るがない ::

われらは感激に燃えたつ

ヒップ・ヒップ・フラー、ヒップ・ヒップ・フラー

われらはしっかりと心正しくまとまるのだ

ヒップ・ヒップ・フラー、ヒップ・ヒップ・フラー

3) ドイツの道徳、ドイツ風なもの

それは決して滅びはせぬ。

その力の現れるところでは

誰も争うことはできない

われらの父祖がその雄々しきで

築き上げものに対して。

:: それはわれらに永遠に

最高の財産として託されたものなのだ：：

われらは感激に燃えたつ

ヒップ・ヒップ・フラー、ヒップ・ヒップ・フラー

われらはしっかりと心正しくまとまるのだ

ヒップ・ヒップ・フラー、ヒップ・ヒップ・フラー

音楽関係ではまたもわれらの体操楽団が素晴しさを演出した。今回のメンバーはチター2台（シェーファー曹長とヤンセン）、ヴァイオリン1丁（フェルヒネロウスキ）、ギター2丁（フォラントとバウアー）であった。曲の演奏を聞いていて、皆を楽しませるために何度か練習が必要だったことは明らかに分った。演奏曲の中で鐘のワルツが、かわいく懐かしい響きでもって全員の心の中に長く留まることになるだろうと私は思う。

私の印象では、その場の雰囲気は最初の半時間あまり高揚しなかった。あちこちに、不機嫌さとか何やかや隠すためにわざと隅っこに引っ込む者がいた。しかし、

誰であれ、麦酒を手に腰掛け

良き語らいをなす者、

その者はやがて楽しげにその場を見渡し

黄金の時間を味わいつくす。

歌と楽の音が部屋を満たしたが、

それはほとんど比ぶべきものがないほどだった

このにぎやかな楽しい集いのなか
 本当はもう一人の体操選手がぼつんと坐っていた
 ふさわしい場所を見つけることができず、
 だから直ぐそこから消えることを選んだ。
 それから程なくしてもう一人戸口から入ってきた。
 「黒い本」とともに最後のガラクタを持ってきた。
 「上級者」が自分の歌を歌い始めると
 「シニアたち」の心をつかみ、彼らも自分の歌を歌った。
 体操医学の歌が大きく響き
 後備兵の行進のごとく戦場へと向う。
 幾度となく互いへの乾杯の声が掛けられる、
 体操し、楽しく過す、夜の休息に入るまで。
 雰囲気は盛上がり、言葉が出づらくなる
 9時半にはビールが無くなり
 9時45分にオイヒラーが帰室を呼びかけるが
 10時まで和気あいあい過ぎる
 こんなに楽しく全てを忘れても
 時間厳守はちゃんと守られた。
 帰室となっても気分を損わず、
 全員最後まで満足したのだ。
 この最後のしめくくりは
 書記ムックスである。